

第54回造本装幀コンクール 受賞者インタビュー

日本書籍出版協会理事長賞：

『てんとう虫コミックス『ドラえもん』豪華愛蔵版

全45巻セット「100年ドラえもん」』



©佐藤祐介

出版社

小学館 第二児童学習局 ドラえもんルーム

●御社の活動について教えてください。

小学館のドラえもんルームは1991年に発足し、『藤子・F・不二雄大全集』といった藤子先生の著作の出版、毎年春に公開されるドラえもんの映画企画のとりまとめなどの活動をしています。今年春には、ドラえもん初めての美術書『THE GENGA ART OF DORAEMON ドラえもん拡大原画美術館』を刊行しました。

●今回の作品のような造本にされたのは、どのような経緯があったのでしょうか。

2020年は「ドラえもん」のまんが連載が始まって50周年にあたります。そんな記念の年にふさわしい豪華な企画をということからスタートしました。

ドラえもんの誕生は2112年ですが、そんな約100年先の未来でも読み継がれている本に出来ないか、22世紀の未来に届けるにはどんな造本にしたらいいか、デザイナーの名久井直子さんと一緒にアイデアを膨らませているうちに、今回の『100年ドラえもん』の造本・装幀に行き着きました。



装幀家 名久井直子氏 完成披露発表会にて

「ドラえもん」のまんがを紙の本で100年後に届けたい、その強い思いが結集したのが今回の『100年ドラえもん』です。

●応募したきっかけや、受賞の知らせの感想、周囲の反応など、いかがでしたでしょうか。

この本を実際に見た社内の人間から、これはぜひ造本装幀コンクールに出品した方が良いとアドバイスをもらい応募いたしました。

応募を聞いた周囲の人間からは「受賞間違いなし」などと言われていたので、もし受賞できな

かったらどうしようとかかなりなプレッシャーになっていました。ですので受賞のメールをいただいたときは、嬉しいよりほっとした気持ちの方が大きかったです。

●作品制作において、こだわった点、苦労した点、そのほか制作についてのエピソードがあれば教えてください。

こだわった点というか、刊行発表会で説明した『100年ドラえもん』の10大特長を以下に並べてみます。

1. 全巻ハードカバー&かがり綴じで読みやすく丈夫。本がのど元まで開き、見開きページも完全再現。
2. 表面はドラえもん史上初となるオリジナル布クロス装。
3. 布クロス装へのプリントはシルクスクリーン&金の箔押し
4. 本体上部は、本文への湿気を防ぎ、豪華な見た目の天金仕様。
5. 経年劣化が少ない上質な用紙（オペラクリアマックス）を使用。
6. 見返しにはこの本のために抄造した和紙を使用。しかも透かしてドラえもんの顔が浮かび上がる。



布クロスの表紙は防汚加工が施されおり水をきれいにはじく

7. 掲載原稿はすべて最新の技術でリマスター。印刷時の出力線数は133線から150線に。

8. 装幀はドラえもん愛に溢れるブックデザイナー・名久井直子氏が担当。

9. コミックスは15冊ずつ専用美麗ボックス×3個に入れてお届け。

10. ここでしか手に入らない別巻3冊&超豪華特典（フィギュア、タイムふろしき）がついてくる。

これらを詰め込んだ結果、総重量が16キロを超えてしまい、持ち運びの際に苦勞をおかけすることになってしまいました。もし腰を悪くされた方がいらっしゃいましたら、心よりお詫びを申し上げます。

●一般の方は「造本」という言葉になじみがないかもしれませんが、「造本」の観点から、本を視る」ポイントがあったら教えてください。



全45巻セット 右端は別売りの「どこでもドア型本棚」

『100年ドラえもん』は、見返しにドラえもんの透かしが入った和紙を使ったり、表紙の布クロスにスクリーン印刷を施したり、さらには箔押しや天金加工にしたりと、最近ではあまり見なくなった印刷・加工技術をこれでもかと結集しました。今回の受賞は、それらの技術を途切れることなく継承されてきた皆様のおかげです。

100年後の子供たちにも、ぜひ紙の本でドラえもんを読む楽しさを味わってほしいですし、今回のような紙の本ならではの印刷・加工技術の素晴らしさも味わってほしいと思っています。(了)